

平成 5年 1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町1-684 Tel0428-23-6859)

我が家で行う正月行事（青梅市畑中1丁目）

平成5年のお正月も無事終わり、それぞれ新たな気持ちで一年を迎えたことと思います。毎年放送される各地の正月風景もお正月を迎えるに当たってのいろいろな儀式を紹介することが常のようです。青梅市内の皆さんも、それぞれの家風に合わせて毎年行っている事と思います。そこで、我が家の昔から行われている内容をご紹介します。

◎ 餅つき

正月というتماず頭に浮かんでくるのが餅つきです。これは、12月27日か28日に行ない、釜、せいろ（3段）、うき、うす、きね、のし棒、のし板などを用意します。釜の縁には塩を盛って清め、2升の餅米をせいろにいれ、3段重ねで蒸すこと約50分。いよいよ餅つきの始まりです。餅は、のし餅を主体に、上下二段重ねのお供餅を3臼めにつくり、こしあん入りの大福まんじゅう、辛み餅などを昼食時に合わせてつくり、ほぼ1日かけて終わらせます。29日の餅つきは物忌（ものいみ）として避けます。

◎ 榊とり

神棚等にあげるため、12月下旬に山へ榊をとりに行きます。冬でも一段と緑を濃くした榊の芯の有る部分を選んでとります。

◎ 注連縄づくり

わらの穂先の部分を持ち、指で逆撫でをして袴部分を取り去ります。残った茎の部分を集め、むしろにくるみ、熱湯をかけて蒸らします。やわらかくなったところで、直径3cmほどの縄を10本ぐらい、大根じめを1本（直径5～6cm）、幣串を刺すためのわら束（長さ10cm）を7本ぐらいつくりします。

◎ 飾り付け

30日の夕方、注連縄のよりの間に幣をはさみ、榊と共に玄関等の出入口に飾り付けます。我が家の神様は、大神宮様、歳神様、三宝荒神様、稻荷様、弁天様、水神様、親井戸様等となっており、除夜の鐘が聞こえ始めたら、ローソク、お供餅、みきの口、半紙を各社にお供えしてまわります。

◎ 悪魔払い

除夜の鐘が聞こえ始めたら、家のすべての部屋と家族の人に幣串を振って歩き、外の一番高くて大きな樹の根へ刺しに行きます。行く途中で後を振り向かないというならわしが伝えられています。

◎ 三が日の食事

3日間の朝食はすべてお雑煮です。昼食には制限がなく、夕食は、寿司、うどん、白飯とそれぞれかえ、神様へも小さく切って供えます。

三が日が終わると7日は七草粥、12日はだるま市、14日は石臼を土台に、つげの木に団子を指してのまゆ玉、15日は小豆粥、20日がえびす講と、色々な行事が続きます。

以上、ここにあげたものは、何等かの意味を持たせて古くから行なわれているものですが、代替わりによって廃れやすい内容となっており、文面によって紹介いたしました。

（文責 鈴木晴也）